

電子投標核心系統的現状
與未來

電子入札コアシステムの現状と将来

Present and future of Electronic Bidding Core System

Apr. 19, 2017

一般財団法人 日本建設情報総合センター
Japan Construction Information Center

Back ground

背景

- 1996年4月「建設CALS整備基本構想」／建設省
2010年 21世紀の新しい公共事業執行システムの
 - 2000年11月「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」公布
「透明性の確保、公正な競争の促進、適正な施工の確保、不正行為の排除の徹底」
 - 2001年1月 e-Japan戦略
公共事業や資材の調達に電子調達方式を導入
 - 2001年6月
- 「CALS/EC地方展開アクションプログラム(全国版)」／国土交通省
- 目標年次**
- 都道府県： 2002～2003年度 電子入札開始
 - 政令指定都市：2002～2003年度 電子入札開始
 - 市町村： 2003～2004年度 電子入札開始
- ⇒各地方公共団体で電子入札導入に向けた検討開始

Ex Ministry of Construction
JAPAN began to improve
public procurement

Establishing new law
and rules

E-Bidding was started

効果と開発経緯

- 電子入札システムの効果
 - 発注者の事務の効率化
 - 入力の手間やミスの低減、入札の迅速化
 - 入札会場や駐車場の確保などが不要
 - 競争性、透明性の向上
 - 入札の過程や結果が公表され、透明性
 - 応札者(入札参加企業)の費用低減
 - 移動時間や待ち時間、移動経費が減少
 - 入札参加機会の拡大
 - 地理的条件、時間的制約が解消される

Efficiency
Avoiding mistake
Improving Competitiveness and transparency of pubic procurement
Reducing bidding cost
Expanding opportunity for bidding

The consortium was established for developing e-bidding core system.

- 2001.7 電子入札コアシステム開発コンソーシアム設立
- 2001.10 国土交通省 電子入札運用開始
- 2002.6 電子入札コアシステムVer.1リリース
- 2003年度 国土交通省 直轄事業(工事・業務)対象に電子入札全面実施

Being applied for whole public construction projects.

3

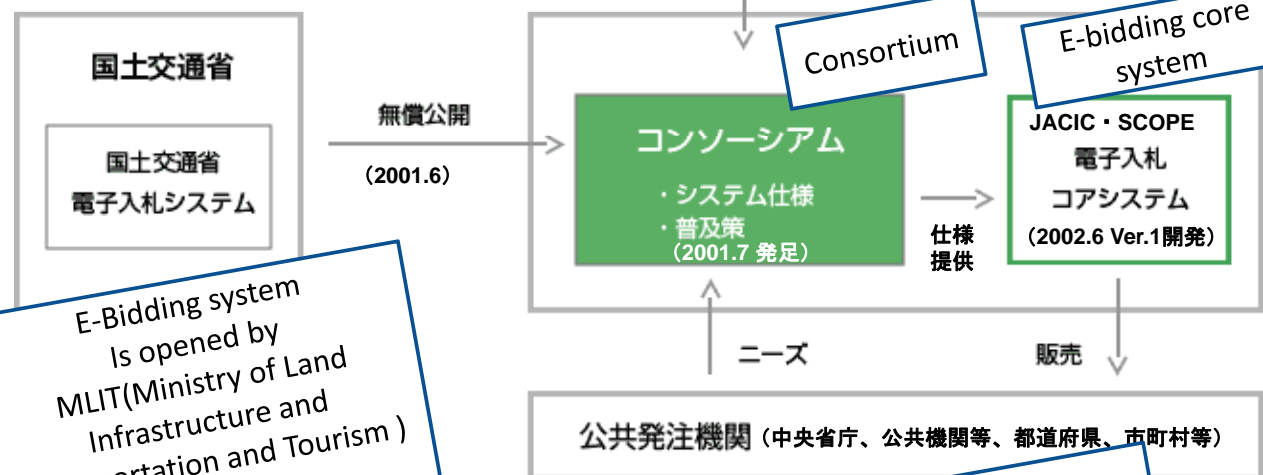
コンソーシアムについて

How our consortium work

IT vendors consultants, Certification Association give their resource

参加ITベンダー、認証局、コンサルタント、.....

知識・人材・運営資金



E-Bidding system
Is opened by
MLIT(Ministry of Land
Infrastructure and
Transportation and Tourism)
JAPAN

Providing e-bidding core system
for public organizations

4

コンソーシアムについて

• 設立目的

- 地方公共団体等の公共発注機関への円滑な電子入札システムの導入支援
- 電子入札システムのコア部分を開発および改良するための仕様の検討並びに運用支援に関する検討

• 活動内容

- 電子入札コアシステムを開発、改良するための仕様検討
- 開発及び改良成果の検証並びに運用支援に関する検討
- コアシステムの開発は、別途JACIC、SCOPE※が行う

※SCOPE: Service Center of Port Engineering

(一般財団法人港湾空港総合技術センター)

• 会員構成(2017/1/17時点)

正会員(ITベンダー 5社)

賛助会員(ITベンダー、認証局、コンサルタント 18社)

特別会員(公共発注機関等 242団体)

What's our consortium for?

Supporting to installation and operation
Specifying development of core module

5 IT vendors
18 IT vendors, consultants, CA
242 Municipals

5

コアシステムの概要

• 電子入札コアシステムとは

電子入札システムの**基本**となるパッケージソフトウェアとしてJACICとSCOPEが開発・販売

電子入札システム

=

電子入札コアシステム

+

発注機関カスタマイズ部分

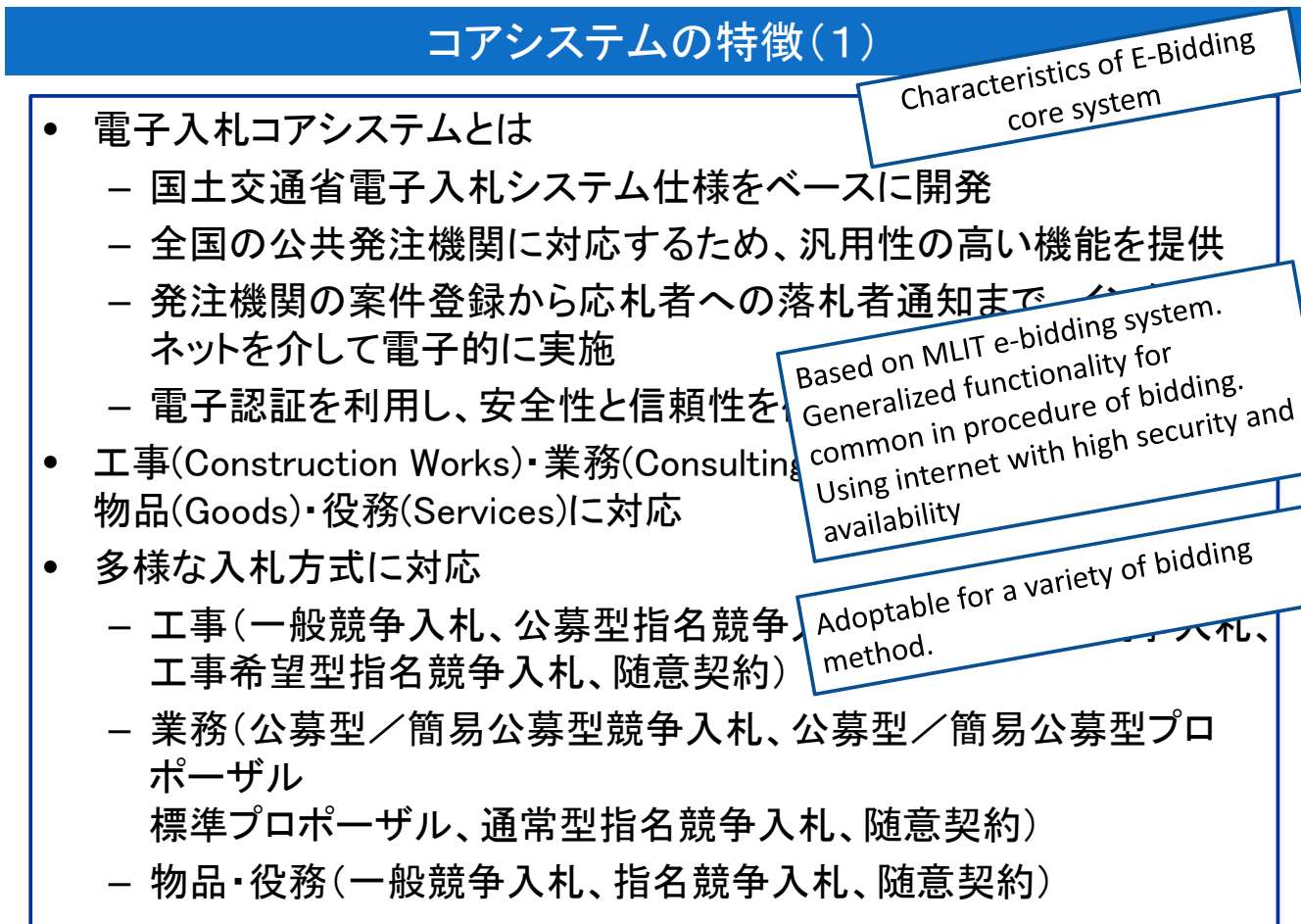
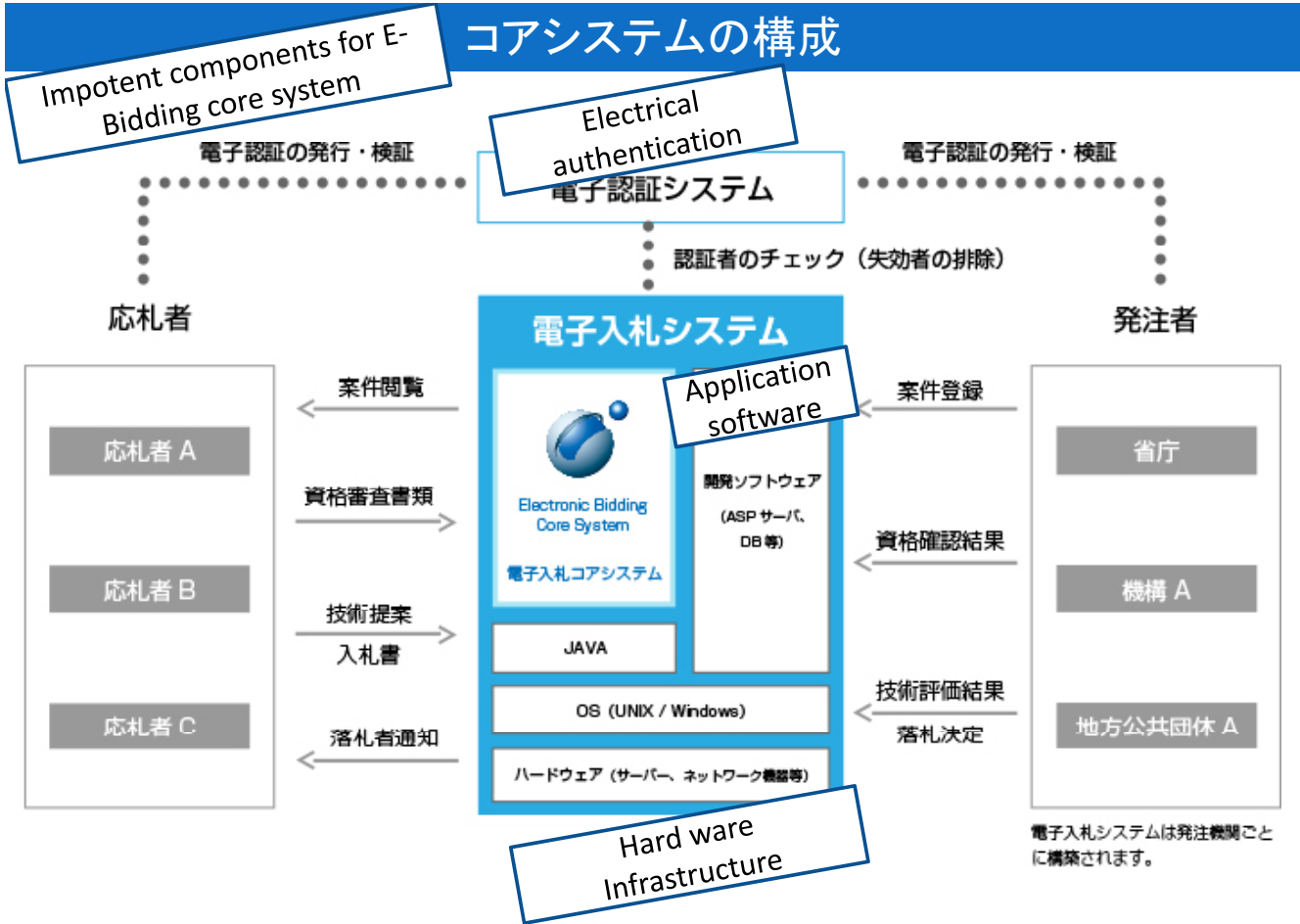
(例)

- ・ロゴマークや画面色の変更
- ・警告メッセージ等の内容追加や変更
- ・個別機能の追加や変更
- ・発注機関固有の入札手続きへの対応
- ・関連他システムとの連携機能の追加

※電子入札システムを稼働・運用するには、上記ソフトウェアに加え、動作に必要なハードウェア、ソフトウェア、運用体制(システム管理、ヘルプデスク)等が別途必要になります。

It's package software composed with basic functionality for bidding and customizable modules.

6



コアシステムの特徴(2)

Characteristics of E-Bidding
core system

- セキュリティと認証
 - 暗号化やICカードの利用等による高いセキュリティを確保
 - 公開鍵暗号方式、共通鍵暗号方式
 - 入札書等を暗号化(盗み見防止、改ざん防止)
 - 入札書は開札予定日時まで復号できない(電子的な入札箱の役割)
 - なりすまし等の防止のため、第三者による認証を実施
- マルチプラットフォームへの対応
 - サーバOS: Windows Server、RedHat Linux、Solaris
 - Webサーバ: Oracle iPlanet Web Server、Apache HTTP Server
 - APサーバ: Oracle WebLogic Server、JBOSS Application Server
 - データベース: Oracle Database、PostgreSQL

High security with encryption
and IC card.

Adoptable for multi IT
platforms

9

コアシステムの特徴(3)

Characteristics of E-Bidding
core system

- 最新技術への対応
OSやミドルウェア等のバージョンアップに迅速に対応するため情報収集や検討を実施
 - サーバOS、ミドルウェア等の最新版への対応
 - クライアントOS(Windows)、JREの最新版への対応
- 充実したサポート体制
 - サービスセンタによる技術サポート
 - 毎年1回の利用者会議、地方ブロック会議(9箇所)の開催
 - ホームページによる情報提供

Following new Information
technologies

Supporting Courteously

10

バージョンアップの主な内容

Timely updating its version

- 2002.6 Ver.1 工事・業務に対応
- 2002.10 Ver.2 物品・役務に対応、政府認証基盤(GPKI)に対応
- 2003.6 Ver.3 地方公共団体組織認証基盤(LGPKI)に対応
- 2004.6 Ver.4 入札情報サービス(i-PPI)への情報送信機能
- 2005.3 Ver.4.1 添付ファイルサイズの拡張(1MB→3MB)
- 2006.7 Ver.4.2 総合評価機能の拡充
- 2007.7 Ver.5 総合評価方式の機能追加
- 2009.5 Ver.5.1 ミドルウェアの新バージョンへの対応
- 2013.7 Ver.5.2 IPv6への対応
- 2013.7 Ver.5.3 暗号機能強化、OSS(Open Source Software)対応
- 2016.3 Ver.6 操作性、処理速度の改善

11

利用者のニーズに応じた料金設定

- コアシステムを利用できる機関は、以下の「公共性の高い発注機関」に限定していた利用対象を「公共機関」に拡大。**(以下の赤文字が拡大部分)**
 - 国、地方公共団体
 - 公共法人、公益法人等、**協同組合等**
 - 高速道路会社等、**鉄道会社、私立大学、病院等の公共性の高い発注機関**
- 発注規模の小さい地方公共団体も利用がしやすくなるよう、「共同利用」という利用形態を用意。
 - 単独利用(機器やソフトウェア等を単独で構築・運用)
 - 共同利用(機器やソフトウェア等を複数の団体が共同で構築・運用)
 - 都道府県主導型(都道府県+市町村)
 - 市町村共同型(市町村のみ)
- 発注件数が少ない機関向けに「少額利用者向け特例料金」を設定。また、利用件数に応じた料金を希望される機関向けに、「変動単価型料金」を設定。
 - 購入(使用許諾契約)・保守契約(発注件数が多い機関向け)
 - 少額利用者向け特例料金(賃貸借契約)(発注件数が少ない機関向け)
 - 変動単価型料金(賃貸借契約)(利用件数に応じた料金)

Reasonable pricing with service menu to follow user's characteristic and transaction volume

Shared use for Small budget organizations

Providing low transaction volume fee or measured rate

12

料金改定の経緯

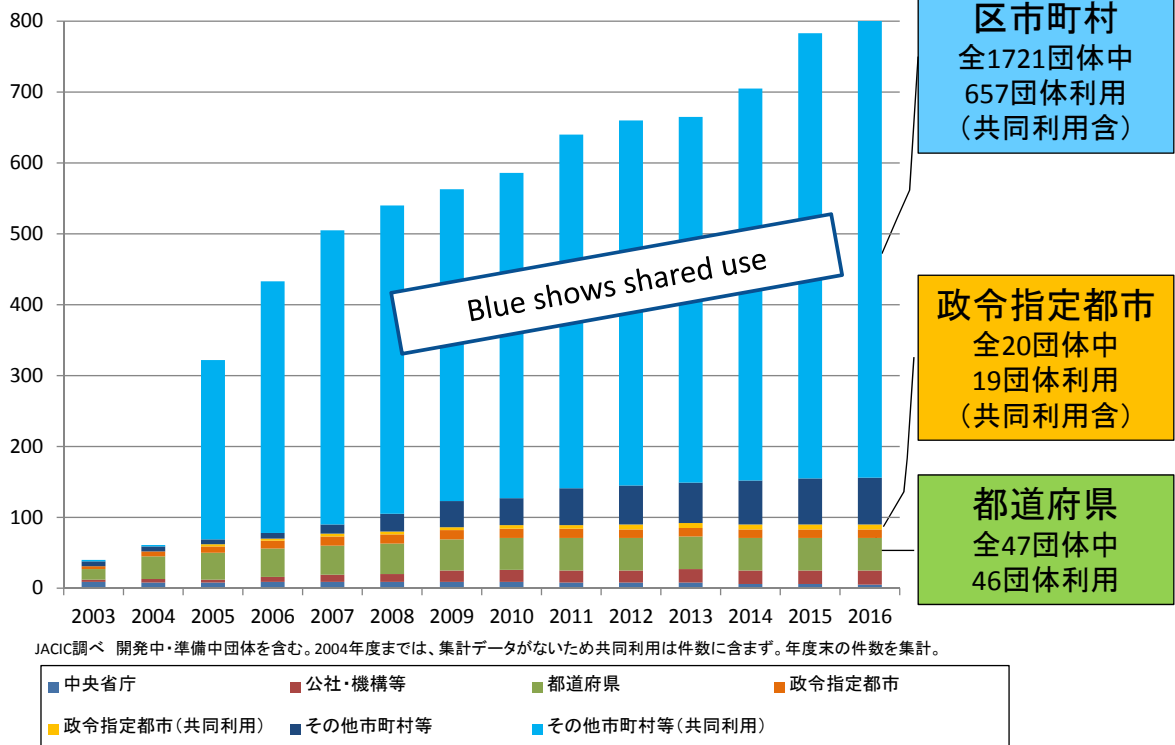
History of pricing

- 発注機関の要望に応えた利用しやすい料金体系を提供
 - 2001.9 販売価格、保守料の新設
 - 2001.10 共同利用料金の新設
 - 2002.7 少額利用者向け特例料金の新設
 - 2003.1 料金値下げ(同一機関内で2件目以降の販売価格を無料)
 - 2004.7 少額利用者向け特例料金を改定
(適用要件緩和:年間発注総額の上限を引上げ)
 - 2005.1 少額利用者向け特例料金を改定
(適用要件緩和:年間発注総額の上限を引上げ)
(料金値下げ:年間80万円から年間39.6万円に)
 - 2005.9 変動型単価契約方式の新設
 - 2015.4 少額利用者向け特例料金を改定
(適用要件緩和:年間発注件数351~400件も対象)
 - 2016.4 保守料を改定(サポート期間延長:V5.1延長サポート料金を設定)
新規契約時の初年度料金の新設(負担の公平性確保)

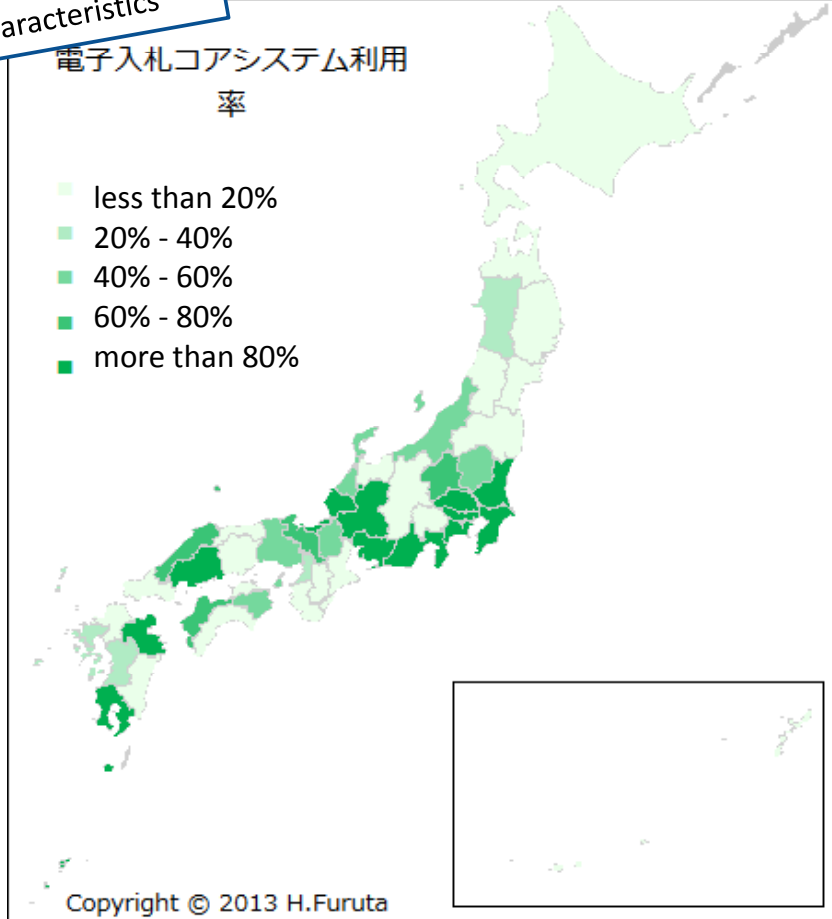
普及状況

A number of our user

Total 806 entities, as of Feb. 2017



Regional characteristics



今後の展望

Near future plan

- 機能拡充面
 - 自治体セキュリティの抜本的強化対応(添付ファイルの無害化)
 - 社会情勢の変化への対応(法人番号データの追加対応)
- 周辺環境対応面
 - Oracle Java Plug-in廃止に向けた対応
 - OS,ミドルウェア製品のバージョンアップに対する対応
Windows Server, Linux, Apache, Oracle WebLogic, Oracle Database, Windows 10, JRE(Java Runtime Environment), etc.
 - OSS(Open Source Software)製品への対応
jBoss, PostgreSQL, etc.
- 普及面
 - 地方自治体への更なる普及拡大
 - 公共発注機関以外の公共性の高い発注機関への普及拡大
- 料金面
 - 経緯や利用状況の変化を踏まえ、機能と負担の公平性等の観点から総合的な検討を実施

Responding new nation wide security requirement

Applying new middle-ware platform

Promotion

Improving pricing

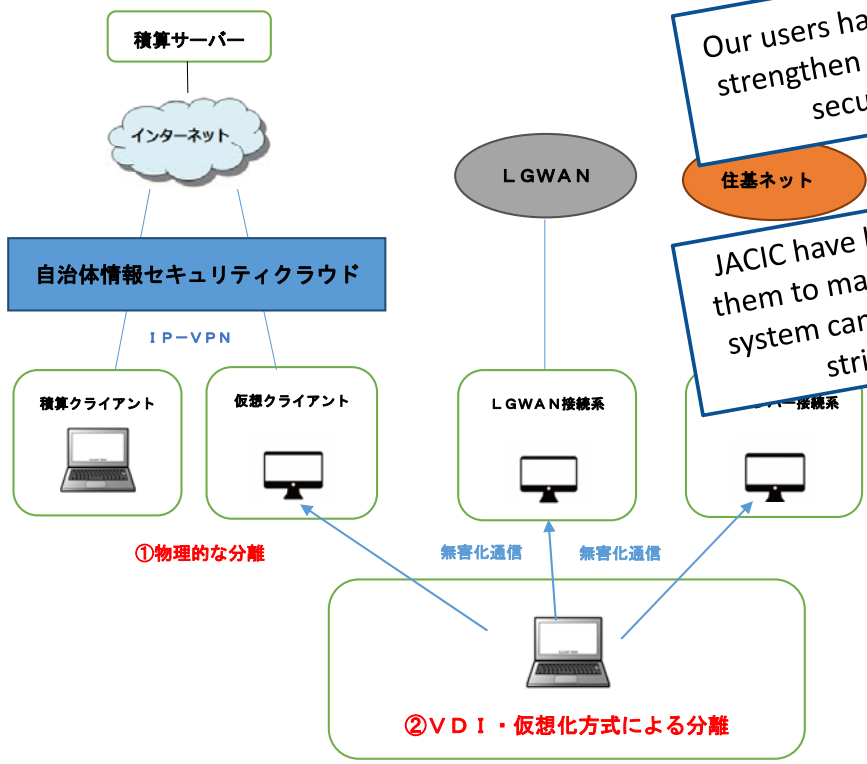
セキュリティクラウド導入後の課題(自治体)

現状の課題・・・インターネット系とLGWAN系のネットワーク
 ファイルをLGWAN系に取り込む場合のファイル無害化
 JACICの対応 ⇒JACICが提供するシステムにおける対策を検討してユーザー

Responding new nation wide security requirement

Our users has been require to strengthen their information security policy.

JACIC have been supporting them to make e-bidding core system can be used in their strict network



滝桜 “Taki-Zakura”
 Cherry Blossoms looks like flower waterfalls
 in Miharu, FUKUSHIMA



Thank you for your attention